

「リサイクル社会が大きく変わる」「国際環境認証は取っても意見ない?!」「環境を仕事にしよう」

日経Eco21

平成11年6月16日 第三種郵便物認可 平成12年3月1日発行 年6回奇数月の1日発行 No.6

日経Eco21

地球を大切に
人たちの
環境マガジン

リサイクル最前線

ゴミ分別が常識ではなくなる日

「環境ホルモンで人間がキレル」説

3つのデータと2つの仮説

20年かかってやっと1基停止
スウェーデンの脱原発 現実の中の理想

「買ってはいけない」バカ売れの陰に
“あってはならない”裏事情

デンマークの再生可能エネルギーは
クリーンでもうかる仕組み

省燃費だけが自動車メーカーのエコじゃない
BMWが証明した、
高級車が果たすべき役割

ゼネコンだって生きものと共生できる

環境の仕事への就職、転職

企業が
志望者に求める
「情熱」より
大切なポイント

中村敦夫が斬る
俺にはかかわりがある!

ブームの国際環境認証
ISO14001

取らなくても
やっていける会社
取ればメリット
となる会社

定価 580円
100%再生紙使用

2000
March

3

日経ホーム出版社

ISO9001とISO14001 企業はどちらを取るべきか

品質管理の国際認証9001と環境管理の国際認証14001。

ISOの定める、主たるふたつの標準化システムは今後改正が予想されている。

まだ取得していない企業にとって、取るならどちらを取るべきなのか。

また、将来予想される新たなシステムにはどんなものがあるのか。



ISO マスターズ代表取締役社長

萩原陸幸

1975年山梨大学工学部大学院修士過程修了。横河電機エンジニアリング部長を経て独立。IRCA/JRCA主任審査員。グローバルエコ・フォーラム副会長。著書に、「間違いだらけのISO14000」「環境ISOが見る見るわかる」「サービス業のISO9000・ISO14000」「中小企業のISO9000」「ISO9000活用の知識」他多数。

最近会話の中で、「システム」という言葉をよく聞くようになった。システムすなわち「仕組み」という考え方は、今までわが国では意外と希薄であった。

あまりにも当たり前すぎて、意識されなかつたきらいもある。考えてみれば、世の中や毎日の生活、それに様々な仕事など、すべて「仕組み」の上に成り立っている。

世の中には機構があり、生活のリズムがあり、また仕事の手順がある。それらはすべてシステムである。このシステムをISO9001やISO14001の導入のおかげで、ずいぶん明確に意識もし、かつ企業の中で再構築したところが多い。

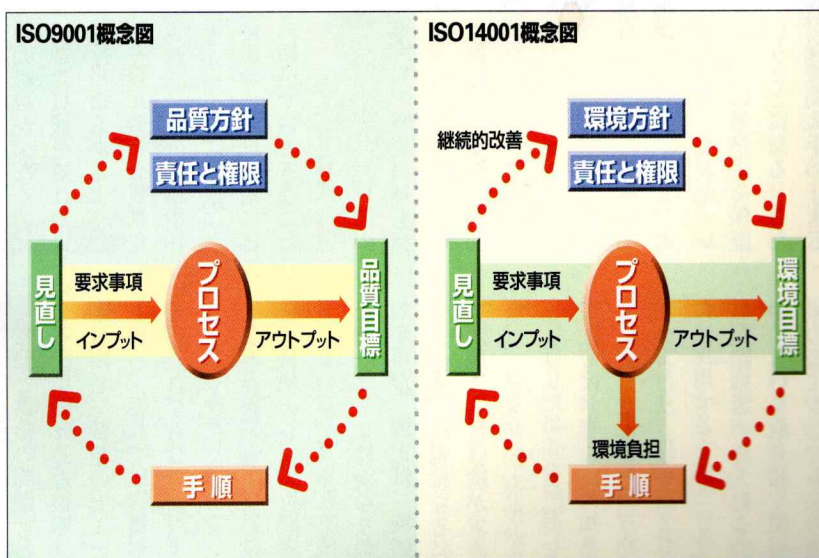
ISO9001とISO14001の違い

ISO9001は「品質」を、ISO14001は「環境」をテーマ

に国際規格として開発されてきた。各々の規格は、前者は「不適合の防止」を、後者は「環境負荷の低減」を目的としている。

しかし規格の要求事項そのものを読んでみると、二つの規格のシステムは、ほとんど同じだと気がつくはずだ。経営トップが方針を宣し、手順に従い仕事を実行、その結果をフィードバックし、方針の見直しにつなげる。目的は違えどもサイクルは同じである。

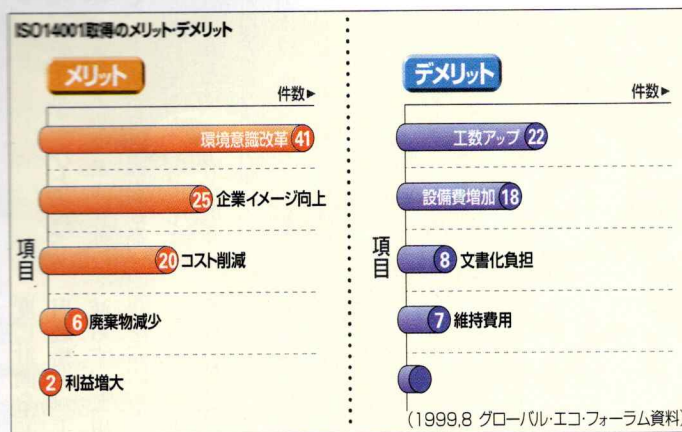
ISO9000シリーズは2000年12月に大改正が行われる。その際には、もつとISO14000シリーズを意識した内容に変わるはずだから、ますます同じシステムといえよう。そうすると、これから認証



を受ける企業はどちらのシステムを構築すればいいのか。どちらを優先させればいいのか。どちらを優先

企業や組織は、日常「品質」だの「環境」だのと区分して活動しているわけではない。むしろ品質や環境はその活動の一部で、そのほかにも様々な側面がある。

「財務」はもちろんのこと、「労働安全」「情報」「危機管理」など、毎日の活動の中で避けて通れない重要



ISO9001 と ISO14001 の相違

項目	ISO9001	ISO14001
顧客	購入者	地域住民、一般住民、国民、従業員
目的	不適合の防止	環境負荷の低減
ISO 要求事項	細かい	包括性
効果	定性的	定量的
法規	製品に関わるもの直接	展型7公害他業務に関連する法規
継続的な改善	弱い	必須
影響	直接取引者	地球環境

側面ばかりである。実は、これら重要な側面が今、新たな「マネジメントシステム」として国際規格化のターゲットになりつつある。

「労働安全衛生」のマネジメントシステムについては、すでにヨーロッパでは欧州規格ができており、国際規格としてISOの認証が始まるのはそれほど先の話ではない。私がシステム構築の手伝いをした広島にある中堅ゼネコンでは、すでにこの欧州規格に沿って「労働安全衛生」のシステム構築に取り組み始めている。

今ISO9001に続き、ISO14001を導入し、2つの国際規格で四苦八苦しているところが増えてきた。システムという考え方になじみがないせいもあるが、これらの悩みの元凶は最初のシステム構築に問題がある企業が多い。

前述の様々な国際規格の今後の動きを考えると、当初からいかにシンプルで運用しやすいシステムを構築するかが問われる時代になるだろう。

環境負荷の大きい企業は14001を優先させるべし

ISO9001とISO14001のどちらを先に導入すべきか悩んでいる企業が少なくない。結論からいうと、企業側でどちらを必要としているかで決めればよい。

例えば、自社の体制を品質の側面から強化したいのであればISO9001だし、環境への取り組みで世の中や顧客から信頼を得たいと思うならばISO14001を優先すればいい。ただし環境負荷の高い建設業界や化学メーカーなどではISO14001を優先させるべきかもしれない。

ところで、現状の各々の規格要求事項の相違は、ISO9001はかなり細かいところまで要求しているところがあるが、ISO14001の方は全体に要求事項が具体性に欠け漠然としていてわかりにくい。それでいて各々の規格の要求事項に共通性があることから、ISO9001を先行した企業にとってISO14001は取り組みやすいものになっている。

そのせいか、先にISO9001の認証取得を実現した企業が、その余勢をかってISO14001の認証も得ているケースが少なくない。

つまり品質ISOと環境ISOの両方を取得するならば、9001を先に取得した方が14001もスムーズに取得できるということだ。ただし、前述したように9001は、今年中には改正され要求事項は14001のように抽象的なものに変わると予測されている。もし今年の後半から9001に取り組みもつとしている企業があれば、改正の動きを待つ方がよさそうだ。